

新型コロナウイルス感染症からの出口作戦

(第25回滋賀県首長会議 湖南市提出)

【新型コロナウイルス感染症の出現】

新型コロナウイルス感染症が世に出て以来もうすぐ3年が経過します。当時は得体の知れない毒性の強いウイルスに対し、治療方法が解明されず、感染者は溢れかえり医療体制は崩壊しました。私たちの日常生活は抑制され、緊急事態宣言が出される等未だ経験したことのない状況が続いた中、二類感染症に相当するとなったことはやむを得ない考え方だったと理解しています。

【新型コロナウイルス感染症の流行】

ウイルスの出現から3年が経過していく中でウイルスは感染力を強めたものの毒性は随分と弱まっていることは、周知のことかと思えます。

この間、計7回の感染拡大期が訪れ、波を重ねるごとにコロナ陽性者は増加し、その度に医療機関はひっ迫し、従来の医療業務に支障が出るような状況でしたが、その感染者とされる人数に比例して死者数が増加したのかということそうではありませんでした。医療機関がひっ迫している最中に二類感染症相当から五類感染症に移行する話がなされますが、感染者の波が上を向いているときには、その議論に手を付けられることはありませんでした。

【新型コロナウイルスの陽性者となった場合死につながるのか】

この間、国やマスコミは毎日感染者の増減を発表し一喜一憂する中、国民はしっかりと防疫に努め、この努力は感染拡大の防止に大いに貢献したと思えます。しかし、その一方で現状下においてもなお、コロナに対し極端に怯え、日々の行動を制限しなければならないという気持ちが全てに対し優先されているのではないかと感じられるのです。つまりは人の気持ちも二類感染症相当を甘んじて享受し五類感染症への移行に不安を抱いているのです。

そもそも PCR 検査等の陽性者は全てコロナの感染者ではなく、コロナによって亡くなられたとされる人数のほとんどはコロナの感染が主な死因となっているものではなかったと感じています。コロナは特別な病気ではなく季節性のインフルエンザと同じ病気としても問題はないのではないのかという思いを持ち続けています。

【国が進める方向は】

長かった第7波の波は今ようやく下を向き、コロナ陽性者の全数報告の見直しや旅行支援の再開、海外からの観光客の受入れ等様々な緩和が始まりましたが、感染症の分類については明言を避けられました。多くの人は、このウイルスが二類ではないということは理解しているはずですが、その一線を越えられないのは何故かと考えると“不安な気持ち”だと思うのです。誰もが安心して医療を受けられる体制を待っているのです。しかし現状、その保証はありません。

【日常生活を取り戻すために】

診察に係る費用等の面を考えると、何もかも季節性インフルエンザのような取扱いになればよいとは思っていませんが、各医療機関でコロナ患者を受け入れるためには、五類感染症へ移行する議論は避けられません。しかし例えば“来月から五類に移行する”ことになったとしても、医療施設の準備は整いません。最低限の準備をするにしても一定の準備期間と資金は必要です。そして何よりも私たち一人ひとりの心の準備も必要となります。ただただ国からの指示を待っているだけでは、次の波が訪れます。今だからこそできることを、全国に先駆けてここ滋賀県から取り組めば、波ではなく新しい風を起こすことができるのではないのでしょうか。